

神田分校記念碑



神田分校跡地に建つ記念碑

今年、名和小学校神田分校が、本校に統合されて20年を迎えました。昭和5年(1930)にイギリスのロンドンで開かれた海軍軍縮会議で、補助艦を対象にした軍縮条約が締結されました。これにより、広島県呉市にあった、海軍の艦船・兵器・弾薬などの製造・修理機関である呉海軍工廠で働く人の人員整理がおこなわれました。

この人たちの受け入れ入植地として、「陸軍馬補充部の跡地であるこの地が選ばれた。昭和6年4月25日に入植希望者によって現地調査がおこなわれ、この年の秋には入植が始まった。しかし厳しい自然環境や都会での就職などから離農者があり、昭和20年の終戦当時にはわずか18戸に減少していた。ところが戦後国策としての緊急開拓が実施

され、ここにも再び春が訪れ、入植者が増加して昔の賑やかさを取り戻してきた」(林之峯開拓五十年記念誌) 神田という地名は、時の26代知事神田純一氏の姓からとったことだ。

いま神田分校の跡地に、静かに立っている開校記念碑の表面には 神田の学びや ここにありき

と彫られ、裏面の由来には 昭和七年五月神田分教場として発足せる神田分校は昭和五十九年三月をもって五十三年の歴史を閉じたり この間教えをうけし先生は三十二名 卒業せる生徒は百五十三名を数う 感無量なり 有志一同この憶いをこめて

ここに記念の碑を建つ 山桜 残りて語れ いくとせも 神田の学びや ここにありしと 昭和六十年五月吉日 とあります。近くの道路側に建立されている「50周年記念 神田開拓之碑」の碑文と合わせて読むと、先人の労苦が忍ばれます。(名和町歴史研究会 金田 千義)

私の傑作コーナー

曙短歌会

*印は新仮名

農道の朝もやけぶるジョギングに頭上のひばりのさえずりを聞く 遠藤 定子

* 直角に身をせずしずと運ぶ古い目指しているはいつもの畑 金田美彌子

車にて常行く道を今日は徒歩 かすか聞こゆる小判草のうた 塩谷 肇子

向日葵の葉つばつたひでのぼりゆく蟻は首振るのぞけるわれに 角 公邦

わが短歌を日記がわりと思ひつつ詠みつつ楽し喜寿すきてより 角田 文子

* 寿限無から長助までを覚えたり暗記は惚けの予防と聞きて 寺井 悦子

五七五と車窓をながめ指折れば前なる席の幼女は真似る 戸野 愛子

* 掃く庭に虫のひとつが小さき葉を引きずりひきずり穴の近くへ 野口 律子

太く細く金けい菊の黄の灯る果ての山門雨しきりなり 森本 怜子

笹鳴句会

滴りの岩のさけ目に口づけす 逢坂 常盤

滴りや崖の樹の葉のそよぎいる 國谷 麗子

滴りに耳かたむけし深山かな 砂口英二子

青胡桃源流の音幽かなり 津村 春水

滴りのつばやき一つ貰ひけり 角田 久子

坂上る老に優しき合歡の花 宮川 節子

咲きみちて空眞青なり凌霄花 橋本 昭子

梅庭広びるとまたこまやかに 美柑みつはる

みふね句会

村に女兒一人ふたりゆすら梅 秋山多喜子

高層の窓見下す大火火 来海 忠満

水滴のつゆやかん届きぬ田草とり 国谷 耕川

犬震へ猫無頼着花火かな 高島 満代

心太突きて切り子の皿に盛る 津村 春水

一日を忙わしく使ひ梅雨晴間 中川 幸宗

あじさいや慣れると云ふは恐しき 榎田 福女

匂ひ来る橋のたもとの栗の花 松井 愛子

高畦を撓なわせをりし遠花火 美柑みつはる

こんなことやってます! 公民館サークル紹介 ④1 名和ハムクラブ

世界を結ぶコミュニケーション手段

「名和ハムクラブ」は昭和55年から活動しているサークルです。月に1回随時、5人のメンバーで活動しています。現代には、電話・FAX・インターネット・パソコン通信などたくさん通信手段があります。これらは電話線がなければ使えません。無線は電話線のかわりに電波を使います。屋根の上にテレビのアンテナと少し違う形のアンテナが立っているのを見たことがありますか? アンテナは、遠くから届いた電波をキャッチして、逆に電波を送り出す役割も果たしています。そして、電波を声にしたり、声を電波にするのがトランシーバ(無線機)です。アマチュア無線の魅力は日本国内はもちろん、遠く海外とも無料で通信できる点にあります。さて、通信手段としておおいに魅力ある無線ですが、電波を使用するため本格的に楽しむには資格として「無線従事者免許証」が必要なおも付加えておきます。興味を持った方、地球上のいろいろな国の人と話(通信)して知識を広めてみませんか。



年間活動予定

【活動日】 毎月1回(随時)

【代表者】 林原 徹郎さん(門前)

【会費】 200円(月額)

【問い合わせ先】

公民館(54 2688)